

平成 27 年度第 2 回 三笠市総合教育会議

- 1 開催日時 平成 27 年 12 月 22 日（火）午後 1 時 30 分開会
- 2 開催場所 三笠市役所 301 号室
- 3 出席者 三笠市長 西城 賢策
教育委員 折笠 真仁
教育委員 渡辺 恵子
教育委員 後藤 寿
教育委員 杉山 文夫
教育長 永田 徹
- 4 関係職員 副市長 北山 一幸
- 5 事務局職員 企画経済部長 中沢 敏男
総務福祉部長 右田 敏
企画振興課長 小田 弘幸
学校教育課長 高森 裕司
社会教育課長 大村 康彦
三笠高等学校事務長 大野 彰
博物館長 中村 正法
企画係長 三好 智幸
学校教育係長 音羽 英明
企画係主事 廣島 雪乃
学校教育係主事 菅谷 琴乃
- 6 傍聴者 1 名
- 7 議 事 (1)教育大綱素案について（資料に基づいて概要を説明）
(2)その他について

会議録（要旨）

1 開会

2 市長挨拶（要旨）

本市では、小中一貫教育を続けており、地域科の授業や国際化を目指した教育を行っております。子どもたちの様々な能力が本市で花開く政策を実現してまいりたいと思います。

また、本市の文化と歴史を継承する郷土芸能は、現在後継者問題を抱えております。素晴らしい文化として後世に残していくためにも後継者を育成してまいります。

本市で教育を受けた子どもたちに戻ってきてもらえるようなまちづくりは、本市のような規模のまちではとりわけ重要となります。子どもたちがふるさとに回帰するプログラムを構築し実践することは、まさに私の夢でもあります。この場で忌憚のない意見をいただき、教育大綱の確定を行い、実施して参ります。

どうぞよろしくお願いいたします。

3 議事

(1) 教育大綱素案について

【折笠委員】 教育大綱素案 3 頁目、三笠市教育のめざす姿の中のある「郷土愛を育む学校教育」とは、具体的にはどういうことか。成長した子どもが三笠に戻ってきてもらうのが一番だが、その受け皿と教育行政がどう絡んでいくのか。

【高森課長】 当市の小中一貫教育の地域科という授業で三笠の産業、自然、歴史を学んでもらい郷土愛を育んでいきたい。例えば、アンモナイト、ジオパークの解説などは、現在中学生を中心に行っているが小学生まで拡大し、更には保護者にも三笠の特性や素晴らしさを知ってもらい三笠を誇りに思ってもらいたい。

【渡辺委員】 全国学力・学習状況調査について、今年度の本市の結果は、全国・全道の正答率よりも下回り、昨年度よりも差が大きくなっている。大きな問題として真剣に考える必要がある。素案 4 頁目施策項目 2 の学力向上未来塾推進事業の具体的な施策はなにか。

【高森課長】 学力テストで一番必要なのは学力の底上げだと考えており

ます。三笠小、三笠中学校において学力定着が不十分な児童生徒に退職教員を活用した放課後学習を行い、基礎学力の定着に取り組めます。中学生は、希望校に進学するため外部講師を招いて塾と同等の学習ができる機会を提供したい。小中学校併せて学力の底上げ、基礎学力の定着を目指した教育体制に取り組めます。学校での教育の他に、家庭の学習の手引きを活用して各家庭での教育も推進したい。

【後藤委員】 高校生レストランの建設候補地を模索しているとの報道がありますが、実際の目途は。

【小田課長】 現在、基本構想の策定は3月に予定しております。策定内容は、施設の在り方、候補地、規模、概算事業費などであり、企画経済部と教育委員会とで議論を深めている段階です。

オープンは平成30年を一応の目途と考えております。

【後藤委員】 候補地は、いかがですか。

【小田課長】 候補地は、三笠高校の生徒の移動を考え、運動公園近くを検討しております。

【杉山委員】 素案9頁目、施策項目5に三笠らしさを演出する芸術・文化活動を推進するため、市民参加の機会を提供するとあるが、具体的な中身は。

【大村課長】 文化協会主催の市民文化祭を軸にして、自主公演を行っている団体など地域に根差した芸術文化を推進していきたい。三笠の文化遺産である郷土芸能の後継者育成を支援する体制の構築に努めたい。

【市長】 三笠らしさとは何か。三笠には市民会館で演奏できるアマチュアバンドがあり息の長い活動をしている。どの年代でも様々な活動ができる土壌と市民の熱意があるのが三笠らしさです。

三笠市開庁130年記念行事として三笠市出身の方の小説を題材とした演劇を企画しましたが、市内の劇団には2人しか所属していないということで断念した経緯がありました。劇団等がまちに残って活動できることが大切です。ひとつひとつ眠っている芸術・文化の団体や活動を掘り起こしていきます。

三笠の郷土芸能についても後継者問題があるため、今後若い方が参加してくれると嬉しいですね。

また、北海盆おどりについて良い機会だから皆さんのご意見を伺いたい。今の盆おどりは、踊りとしていかがでしょうか。今の踊りのかたちでどれぐらいの方に楽しんでいただけているのだろうかという疑問があります。渡辺委員はいかがですか。

【渡辺委員】 うちには毎年施設の高齢者 30 人ぐらいと一緒に参加しております。太鼓の音を聞くと体が動くといいますか、そういう風土に育っておりますね。これから先はどうなのかと思うと少々疑問ですね。私は懐かしいし、踊りますが、若い子は踊りませんね。

【市長】 三笠市の伝統文化としてずっと引き継いでいくなら、手を付けてはならないという考えもありますが、これから先、工夫が必要なのではないか。先日教育長にも申し上げたんですが、今のままではどこかで尻すぼみになるのではないかと考えていることが、正しいのか正しくないのか皆さんのご意見をきいてみたい。いかがですか。

【後藤委員】 生まれた時からある踊りなので今の状態で違和感はない。踊りよりも仮装だとか違う方向でいくという考えもある。お祭りを支えているスタッフの育成も必要ではないか。お祭りの仕組みを知ってる人も段々少なくなっていますし、支える人の育成を支援して欲しい。

【市長】 実行委員会の中でもそういう議論はあるんですか。

【大村課長】 ございます。高齢なので参加を見送りたいという申し出をされた方もいました。

【市長】 その対策はどのように考えていますか。

【大村課長】 今回は、町内会も含め商店街の方に声掛けしたり、ご紹介という形で人を集めております。

【市長】 将来的な展開の問題が心配ですね。10 年、20 年というスパンを考えてどうあるべきかを議論しなければならない。教育長、いかがですか。

【教育長】 盆おどりが長く続いていくよう考えていく必要がございます。

【折笠委員】 現況では、少々マンネリ化している気がいたします。会場も人が一杯になってしまい、少々あずましくないといえますか。スタッフの負担が大きくなっているのではないのでしょうか。

【市長】 一括して専門業者に委託することも一定の時期に検討しないといけないかもしれませんね。演奏者についても後継者を育成して後世につないでいく必要があります。

今も市外から来てもらっている人が多いんでしょうか。

【教育長】 盆唄も毎年やっておりますけど、ほとんど市外の方です。盆唄発祥の地なので、しっかり継続していかないといけません。

【市長】 議論だけに終始してしまうのではなく、具体的にどういシステムを作るかが大事ではないでしょうか。具体的な考えがなかったら何も進みません。いつも困っているで終わってしまいます。具体性のない話はこの場でしても仕方ありませんから、そこはしっかり考えてほしい。

高校生レストランの話ですが、基本的には高校生の活動しやすい場所がいいと思います。委員の皆さんは、相可高校に行っていますか。

【委員一同】 話はありましたが、まだ行っていません。

【市長】 皆さんの都合の良い日で行っていただきたい。相可高校とレストランの距離は、離れています。レストランに来られた方が高校に興味があってもそこまで行くのが大変なのではないでしょうか。出来るだけ高校に近い場所に建設すべきではないかと考えています。これから色んな議論をする中で決定したい。

相可高校は、土日運営で木、金曜日は高校で仕込んで、五色沼公園まで持っていき食事の提供をしているそうです。高校近くに建設すれば、高校の調理室で仕込みをしてウィークディも活用できるのではないか。そのような方法を企画と教育委員会とで議論をしている最中です。

それでは、大綱に関してご意見ありますでしょうか。ご質問がないようですが、事務側で説明がもれたこともございませんね。大綱素案をご了承いただいたということであれば、大綱素案の素案をとりまして、大綱を正式なものとして確定させたいと思います。

(2) その他について

【市長】 その他、ございますか。

【小田課長】 今後のスケジュールについて事務局から提案させていただきたい。予算を議会にかける前段2月頃に教育事業について

【市長】 て皆さんの意見を聴くため、総合教育会議を開催したい。予算要求前2月頃、皆さんにご意見を賜りたいということです。他に何かご意見ありますか。それでは、また改めて事務局からスケジュールを連絡いたします。本日予定していた議題は、これだけでございます。よろしければ、会議を終了したいと思います。ありがとうございます。